

未来・ねりまニュース

平成25年10月

特別号

社会福祉法人未来・ねりまを支える会会報

目次

- コラム「ねりま高松事業所開所に向けて」……………P1、P2
- ねりま高松事業所開所に向けて
《設立の経緯と開設準備状況》…… P 2
- ねりま高松事業所事業概要……………P 3
- 事務局だより……………P 4

発行所 社会福祉法人未来・ねりま

〒176-0013 東京都練馬区豊玉中4-10-6

本部:〒176-0024 練馬区中村 1-7-10 マベラスA101号

TEL03-3577-8657 FAX03-3577-8659(本部が3月に移転)

法人本部 E-mail honbu@mirai-nerima.or.jp

移行支援 E-mail ikou@mirai-nerima.or.jp

継続支援 E-mail keizoku-1@mirai-nerima.or.jp

ねりま第二 E-mail keizoku-2@mirai-nerima.or.jp

ホームページ <http://www.mirai-nerima.or.jp>

ねりま高松事業所開所に向けて

理事長 眞保 眞人

平成十九年、社会福祉法人未来ねりまの誕生以来の念願であった、新事業所及びグループホームを開所することができました。十月一日の開所を前に、これまでに至る様々な出来事がい起こされ、感慨一入のものがあります。発足間もない法人にとって、建設用地の取得に始まり、建物の竣工に至るまでには、乗越えなければならぬ、課題が山積していました。今日の日を迎えられたのは、偏に行政側の支援、地元の方のご理解、建設関係者、親の会の熱意に負うものと感謝いたしております。最後この施設の完成を誰よりも望んでいた故菅野絹子所長の思いを体して法人の発展に一層努めたいと思います。

開所から未来へ

ねりま事業所長 高谷 好文

二つの事業所に遠い高松の地に新しい事業所を。法人でグループホームを。このグループの創設者、菅野さんの願いが込められた、ねりま高松事業所、ねりまグループホーム高松が誕生しました。資金や土地提供者、設計、建設に当たられた方、地域で啓発にかかわってくださった方、準備に奔走された本部職員、多くの方々に感謝します。後から仲間に入れてもらったものは、今後の発展の手伝いをさせてもらいます。

ねりま高松事業所開所に向けて

事務局長兼ねりま高松事業所長 齋藤 洋

平成二十三年度事業計画により、平成二十四年度東京都障害者（児）施設整備事業に基づき建設してきましたねりま高松事業所／ねりまグループホーム高松が本年十月に開所されます。法人設立から6年目で光が丘・高松地区に三か所目の通所施設と初めてのグループホームを無事に開設出来ましたことは、関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。これによりねりま相談支援としても感無量です。これによりねりま相談支援事業所みらいを含めて六事業所十事業となり、従来の倍の障害福祉サービスを地域に提供することになり、法人としても基盤が強化されます。また、十月より相談支援事業のサービス等利用計画作成が完全実施されます。幼児から成人迄の相談支援及び通所施設やグループホーム等総合的な事業活動で地域に根ざした質の高い障害福祉サービスを提供していきたいと考えています。

ねりま高松事業所開所に向けて

ねりま第二事業所長 木村 智恵子

ねりま高松事業所、ねりまグループホーム高松の開所、おめでとうございます。

親達が昭和の時代から、念願だったグループホームが、「未来、ねりま」の力で、実現した事に感動しております。行政や関係機関の多大な御支援と御協力に感謝致しております。又、事業所は経験を積まれた職員方の努力で、素晴らしい働く場になる事でしょう。

ねりま高松事業所の開所に向けて

幼児教室とことこ室長 児玉 結花

ねりま高松事業所、グループホーム高松の開所おめでとうございます。幼児教室とことこは、親の会の教室として開かれてから四十一年。卒業して事業所の一員になった子もいます。「小学校の入学にほっとしてもすぐに将来を考えることになる」と耳にすると、新しい事業所の開所は卒業する子の未来にとっても大きな意味がありますので、同じ未来・ねりまの事業としてこれからも関わっていければと思います。

ねりま高松事業所開所に向けて

練馬手をつなぐ親の会会長 森山 瑞江

1980年に練馬区福祉会館の一部で「ねりま福祉作業所」が3人の指導者と6人の利用者で開始されました。その後、ねりま第二福祉作業所や幼児教室の設立へと障害児者の中活動の場が展開されました。法人の誕生と同時に移行が進み、光が丘・高松地区に通所施設が少ないことやグループホームの設置の要望を鑑みて今年度10月にねりま高松事業所、ねりまグループ高松の設立となりました。親の会は、障害のある人たちが地域において、障害の程度にかかわらず、各ライフステージに応じた適切な支援のもと安心して豊かな暮らしが実現できることを願っています。また地域生活基盤の設備と親や本人の高齢化に伴う課題に添った支援体制の確立を望んでいます。新しい事業所やグループホームがこれらの期待に応えてくれる社会資源の一つとなるように期待します。

ねりま高松事業所開所に向けて 《設立の経緯と開設準備状況》

事務局長兼ねりま高松事業所施設長／ねりまグループホーム高松施設長 齋藤 洋

1. 法人事業計画での経緯

- (1) 平成21年度からの4か年計画でグループホーム（GH）事業を推進することにしました所、親の会会員でねりま第二事業所嘱託医飯島健志先生所有の所在地の旧住宅でのGH化の相談があり、区や都の関係機関と調査、相談した結果、建築基準法や消防法等から断念しましたが、GHを含む新規事業所開設を進めることにしました。
- (2) 平成22年度では光が丘・高松地区に練馬地区、大泉・石神井地区と同様な事業所開設の必要性を考え、就労支援事業所とGHとの合築施設に事業変更、地域への説明や練馬区、東京都と施設建設の準備を進めていきました
- (3) 東京都障害者（児）施設整備事業申請を考え、東京都や練馬区と事前相談しながら、就労支援事業内容やGHとの合築施設について、都区内就労支援事業所に調査を進め、法人や親の会の要望により事業計画を策定しました。
- (4) 事業計画は、①既存事業所利用者の高齢化と多数の利用希望に応える通所施設増設②法人や親の会要望の光が丘・高松地区の通所施設新設、③就労実績を踏まえた就労移行利用者増や特別支援学校卒業生増を考え、PC操作等の軽事務作業可能な就労移行支援事業創設、④親の会長年の願いであるGH・CHの開設等の必要性から就労移行支援及び就労継続支援（B型）の多機能型事業所とGHの合築施設建設を東京都へ申請することにしました。

2. 建設及び開設経緯

- (1) 平成23年度では(仮称)ねりま高松事業所／ねりま高松GH事業計画の周辺住民説明会を行い、7月都へ事業計画提出、9月現地確認、12月障害者(児)施設整備事業国庫協議書申請、3月国へ国庫協議書が提出されました。
- (2) 平成24年度では7月国庫補助内示、11月用地購入、12月建設着工、3月末2階迄立上りました。ねりま高松事業所利用説明会開催、4月ねりま事業所内にねりま高松事業所準備室を発足、利用者18名で運営開始しました。
- (3) 平成25年度では7月中旬建設完了、建築確認、消防検査等合格、8月初め都による建物竣工検査合格、中旬建設業者から法人に建物引渡、防犯火災警備等稼働、メンテナンスプリンターや印刷加工パソコソ等設備、施設内外インターネット情報設備、器具什器備品やグループホームの家具、生活家電製品購入など9月中旬までに整備しました。
- (4) ねりま高松事業所就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業多機能型とねりまグループホーム高松共同生活援助及び共同生活介護多機能型事業申請を東京都事業指定係に8月末申請受理、9月中旬事業所指定されました。
- (5) ねりま高松事業所の運営は4月準備室発足時に職員採用と人事異動により職員体制を整備し、利用者の受入を図ると共に、作業や工賃等を分離作業し、8月末に利用者再募集を行い、利用者20名で運営開始します。
- (6) ねりまグループホーム高松の開設に当り、都育成会、区内事業者などに訪問調査し、事業運営体制整備を行い、世話人等職員採用を図り、法人利用者、親の会等に利用者募集を行い、定員4人(女3人、男1人)で運営開始します。



ねりま高松事業所/ねりまグループホーム高松 事業紹介

【ねりま高松事業所】

ねりま高松事業所は、就労移行支援事業定員 12 名、就労継続支援 B 型事業定員 20 名の多機能型事業所です。利用者の社会参加促進を目的として、地域に根ざした事業を展開していきます。

オンデマンドプリンターを用いた印刷事業について

ねりま高松事業所の活動として、初めて、本格的な印刷事業を行います。オンデマンドプリンター Color C75 Press を用いて印刷・加工事業を展開していきます。

質の高い製品を作り上げることはもちろんのこと、全ての行程に知的障害者が関わり、作業を行うことで知的障害者の社会参加を促進していくことを目的としています。



Color C75 Press

【ねりまグループホーム高松】

ねりまグループホーム高松は、定員 4 名（女性 3 名 男性 1 名）のグループホームです。社会的自立を目的として、生活にかかる様々な訓練を通して、利用者の皆様方の生活自立を図ります。



ゆったりとした個室。ベッドとクローゼットは備え付けです。共用部は床暖房で冬も温かく、また、全体を木目調でデザインし、一般家庭に近いイメージでつくりました。

全館 IH コンロを完備しています。安全に十分配慮した作りとなっています。お風呂はゆったりと浸かれる浴槽と広い洗い場をそなえています。疲れて帰ってきた利用者がほっとできる空間作りに配慮しています。

新しい建物で利用者も職員も気持ちを新たに活動していきたいと思えます。高松に事業所ができて良かったとすべての人に言ってもらえるよう頑張ります。

●平成25年度上期事業活動概要報告

1. 本部事務局

- (1) (大)ねりま事業所(定員：就労移行18名、就労継続42名)内にねりま事業所(就労移行4名、就労継続34名)及びねりま高松事業所準備室(就労移行14名、就労継続4名)を設置し、法人内事業所として運営する。
- (2)ねりま高松事業所準備室は7月頃までに利用者支援や職員体制を分離整備し、8月には保護者会も分離開催。
- (3)ねりま高松事業所／ねりまグループホーム高松事業は毎週建設打合行い、7月中旬に完成、建築確認検査等の合格後8月上旬に東京都竣工検査も合格、諸設備を導入、9月中旬にワグマントﾞプリンター実演含む内覧会を行いました。
- (4)生活自立を目指すグループホーム利用者も定員4名(女3名、男1名)入所、10月開所へ向けて準備が整いました。
- (5)ねりま相談支援事業所みらいのサービス等利用計画作成は47件、10月から法人利用者全員対象で準備を進める。

2. (大)ねりま事業所

2-1 ねりま事業所

- (1)就労移行は利用者4名で開始、1名がチャレンジ就労中で、1名が入所、上期末利用者は5名になりました。
- (2)個別支援計画により事業所や地域の社会資源を活用、就労による社会的自立、生活自立を図れる支援をした。
- (3)就労継続は利用者34名で開始、高松利用希望調査で2名がねりま高松事業所に転籍、32名になりました。
- (4)個別支援計画で利用者ニーズ把握、運動やクラブ活動の充実を図り、意欲向上、健康管理の生活支援をしました。
- (5)喫茶は横ばいでも、新規受注もあり、豊玉公園、かしわ公園、アパート清掃が順調で通常工賃に結びつきました。

2-2 ねりま高松事業所準備室

- (1)就労移行は利用者14名で開始、3名が一般就労し、1名が入所したもので上期末利用者は12名になりました。
- (2)個別支援計画により地域の社会資源を活用、企業実習等で就労自立や生活自立を図れる能力開発支援をした。
- (3)就労継続は利用者4名で開始、ねりまから1名、ねりま第二から1名、外部の2名が入所、8名になりました。
- (4)個別支援計画で利用者ニーズ把握、運動やクラブ活動の充実を図り、意欲向上、健康管理の生活支援をしました。
- (5)準備室として喫茶ゆうゆう作業やアパート清掃、箱折、付録セット作業等により、一定額工賃支給になりました。

3. ねりま第二事業所 就労継続支援B型事業

- (1)新規1名入所、利用者39名で開始、1名がねりま高松事業所に転籍、上期末利用者は38名になりました。
- (2)利用者主体に作業を見直し、個別支援計画により個別にモニタリング評価、目標達成出来るように支援しました。
- (3)職員体制変更が有りましたが順調に推移し、公園清掃や封入封緘作業の受注により通常工賃に結びつきました。
- (4)レクリエーションクラブ活動は4つの教室及びクラブ活動を月1回行い、10月26日(土)施設公開収穫祭に繋げて行きます。

4. 幼児教室「とことこ」事業

- (1)児童福祉法の児童発達支援事業で運営開始、水曜日の就園児組と休み補填策により順調に利用者が増えました。
- (2)個別支援計画で保育・療育実施、ムーブメント、バルーン新保育取入、個別課題取組、来年度入室希望者対策を行う。
- (3)卒室の保護者会「ぽこあぽこ」が応援組織として具体的にボランティア活動を開始、教室支援になりました。

支える会だより

1. 支える会報告

- (1)法人本部、ねりま相談支援事業所、親の会の移転先マールスA101号室改修工事費の一部を寄付しました。

○社会福祉法人未来・ねりまを支える会入会のご案内

<目的>(社福)未来・ねりまのねりま事業所、ねりま第二事業所、幼児教室等の充実発展と利用者支援に寄与すること。

<会 員> 利用者・保護者、役員・職員・お取引業者等の法人関係者、親の会会員等でどなたでも入会出来ます。

<年会費> 1口 2,000円ですが、希望口数としては、個人1口以上、団体・企業等5口以上でお願いしています。

<振替口座> 郵貯 00110-4-544768 社会福祉法人未来・ねりまを支える会(払込料金は会負担で手数料は無しです)

<お問い合わせ> 練馬区豊玉中 4-10-6(社福)未来・ねりま ねりま事業所内 TEL3948-0275 FAX3948-5864 支える会事務局(齋藤、江連)にご連絡下さい。入会申込書兼入会受付書及び会則をお送り致します。